

問題 1. この文章において、著者は、情動と価値判断がどのようなものであり、どのような関係にあると説明していますか？400 字以内で要約してください。

情動は、事物の一面にのみ注目して形成される安直な価値認識であり、迅速だが、あまり精度は高くない。一方、価値判断は他の価値判断との整合性が確立されてはじめて受け入れられることから、かなり精度が高い。そのため、情動と価値判断が対立した場合、価値判断の方が事物の価値的性質を正しくとらえていて、価値判断に合わせて情動が変化することが多い。しかし、価値判断と食い違っていても、情動が変化しないこともある。そのような御しがたい情動は不合理なものともみなされがちだが、多くの経験を積み重ね、研ぎ澄まされた感受性によって形成された情動は、ときに体系的な価値判断より事物の価値的性質を深く精密にとらえることができるので、情動の方が正しいということもある。そのような場合、情動は価値判断に再考を迫るが、それだけでなく、さらに価値観の根本的な転換を引き起こしたりすることによって、私たちの生を新たな高みへと導く。(395 字)

問題 2. 情動と価値判断が対立するような状況には、どのようなものがありますか？本文以外の具体的な例をあげ、そのことに関するあなたの考えや意見を、300 字以内で述べてください。

病気を治すためには手術をしなければならないことが、頭では分かっているにもかかわらず、怖くて受けたくないと思える患者は決して少なくないだろう。このときの恐怖という情動は不合理であり、価値判断の方が正しいと思われる。しかし、手術の説明がよく分からなかったとか、医療者に対する不信感があるといった理由があって、怖いと感じたのであれば、その情動は患者が受ける医療への重大な懸念を示していることになる。したがって医療者は、患者の情動が伝えようとしていることも大事にしなければならない。医療場面においては、情動と価値判断が対立することがしばしばあると思われるが、医療者はその両方に目を向けることが必要であると私は考える。(298 字)